

# 明治期山口県の相撲興行 ～河野家文書の紹介～



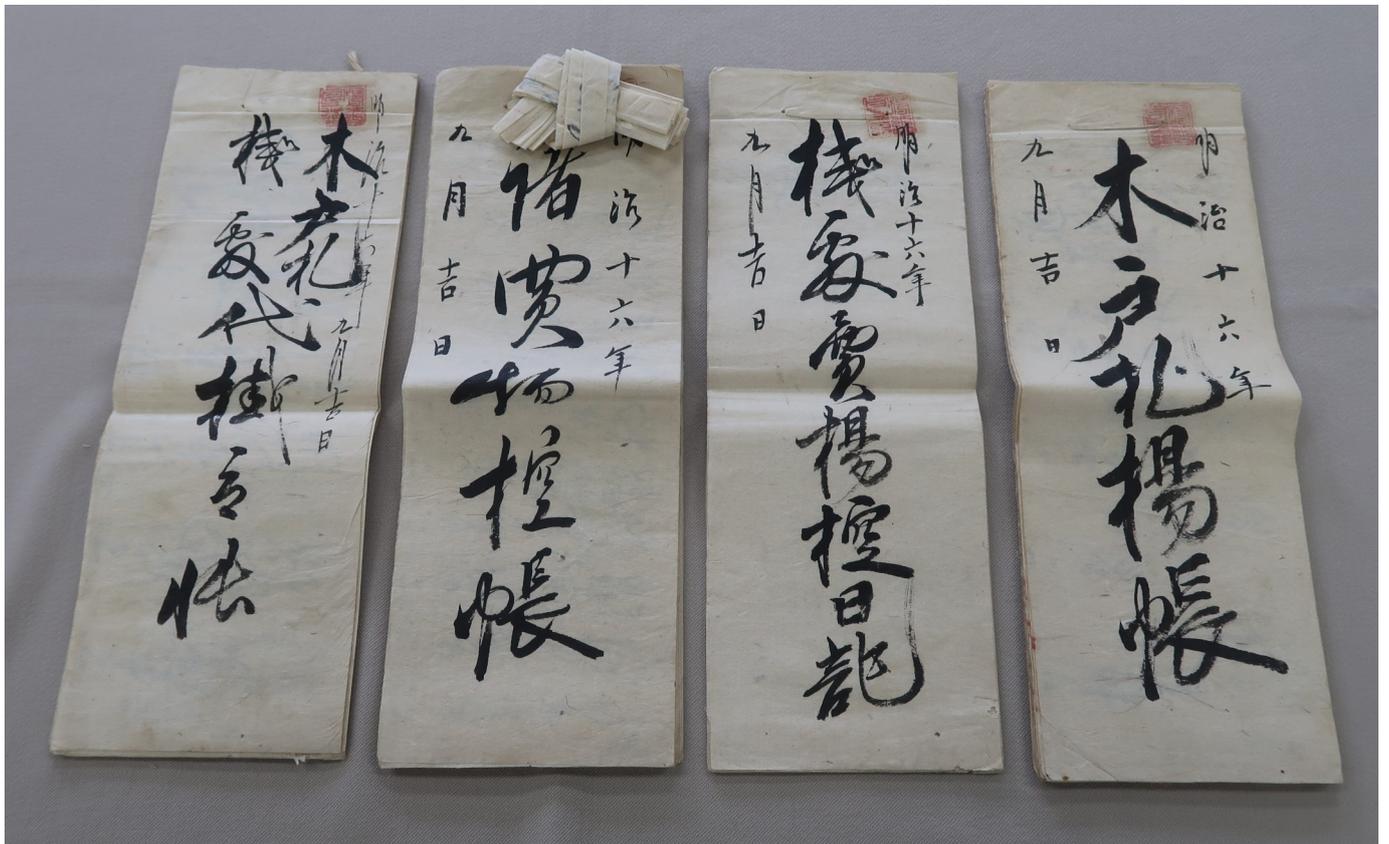
明治19年「山口米殿小路町におみて相撲稽古連名之図」(611)



明治期の県内相撲興行主  
組織の公印

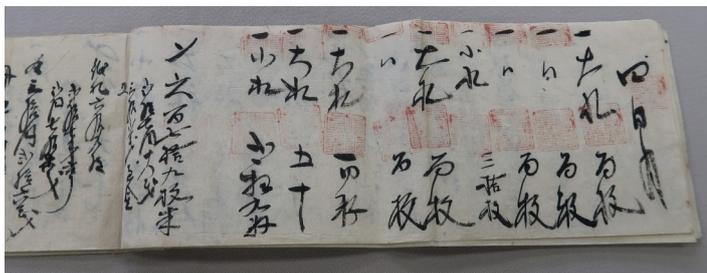
明治19年(1886)旧12月22日より山口町の米殿小路町で行われた「稽古相撲」の図です。中央の力士は兵庫の大漁灘右衛門と筑前の山響友吉、左には筑前の高の矢兵吉と豊前の矢車福松。右には地元周防の力士、小柳平兵衛・濱嵐伊之助・朝嵐宗吉が描かれています。県外力士を招いた興行でした。

- ◆当館蔵・河野家文書(山口市)には、明治期(～30年代)、山口県内で行われた相撲興行に関する資料が80点ほど残っています。
- ◆そのなかに、明治7年(1874)2月、阿武(山分)勝五郎という人物が熊ヶ嶽安五郎に対し「相撲世話人」(相撲の興行主)となることを認めた免許状があります。熊ヶ嶽安五郎は、当時の河野家当主・河野保次郎が興行主として名乗った名前です。河野家はこの時から県内での相撲興行を担う一人となりました。
- ◆以後の相撲興行に伴い作成された様々な帳簿、免許状、取組表などを展示し、明治期山口県での相撲興行のようすを紹介します。



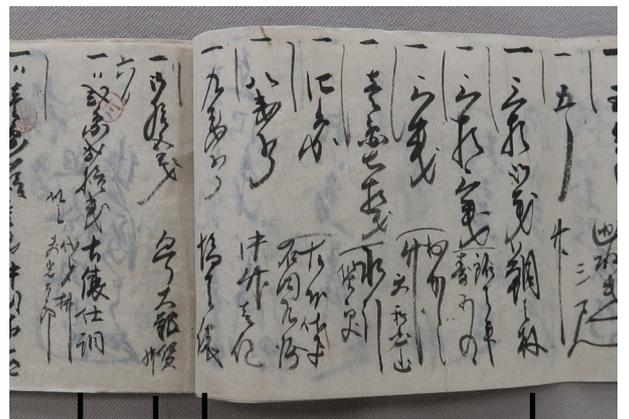
◆ 明治16年9月「木戸札・棧敷代掛取帳」「諸買物控帳」「棧敷売揚控日記」「木戸札揚帳」(592～595)

明治16年(1883)9月の相撲興行に関する帳簿です。／「木戸札揚帳」は、興行での「木戸札」の売り上げ(入場料収入)がわかります。／「諸買物控帳」は興行に係る支出を書き留めた帳簿です。「土俵仕調」(土俵築の費用)として2円20銭、相撲に欠かせない清めの塩、「塩壺俵」9銭5厘などの記載がみえます。「廻り太鼓賃」は呼び込み太鼓(触れ太鼓)の演者への支払いでしょう。「鯛壺枚」32銭の記載もあります。



- 四日目
- 一大札 百枚
  - 一同 百枚
  - 一同 百枚
  - 一小札 三拾枚
  - (略)
  - 一大札 百枚
  - 一大札 五十
  - 一小札 三十九枚
- × 六百七拾九枚半  
貳拾七円十八銭

「木戸札揚帳」



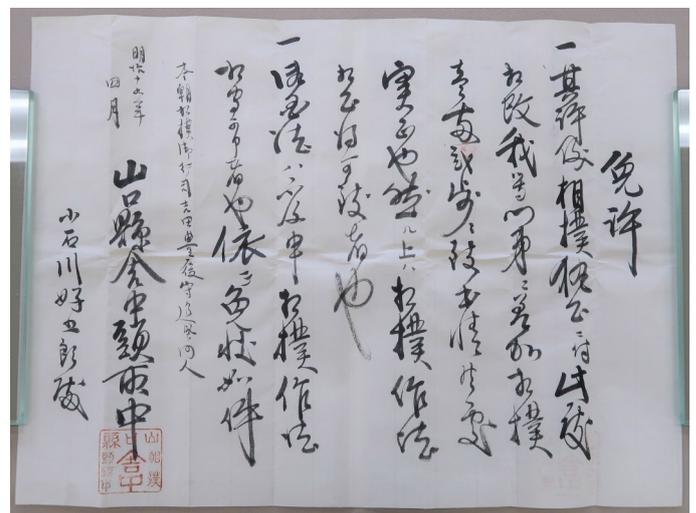
- ↓ 鯛壺枚
- ↓ 塩壺俵
- ↓ 廻り太鼓賃
- ↓ 土俵仕調代

「諸買物控帳」



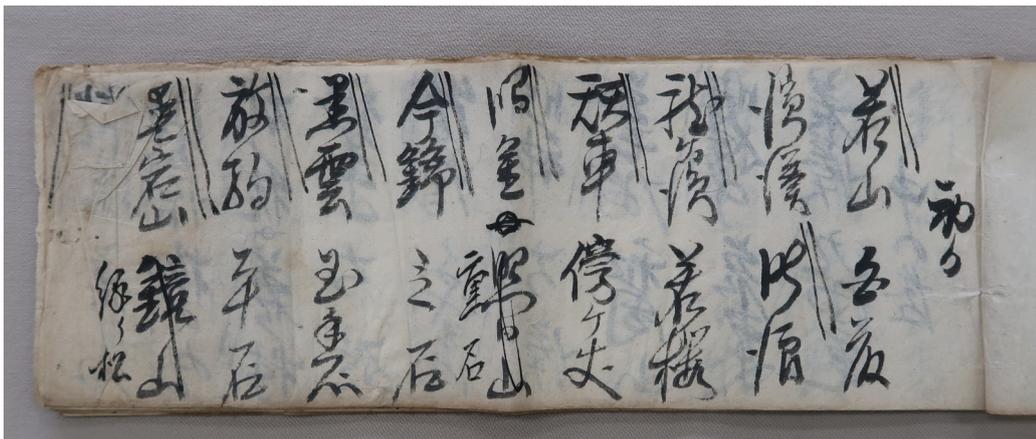
◆明治7年「免許状」(相撲世話人) (586)

阿武(山分)勝五郎が、熊ヶ嶽安五郎を相撲世話人、すなわち相撲の興行主の一人とすることを認めた証文です。勝五郎は、幕末期長州藩諸隊のひとつ力士隊の頭取を務めた人物と推測されます。



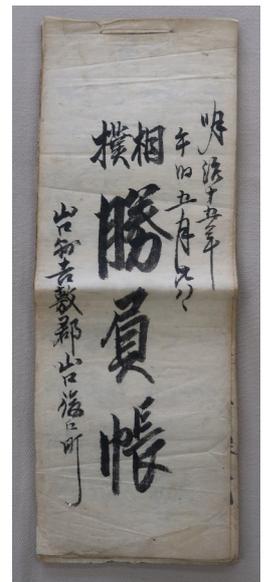
◆明治19年「免許状」(力士) (607)

県内の相撲興行主で構成される「山口県舎中頭取中」が、小石川好五郎を舎中の力士として雇用した際の証文です。舎中は「勇力舎」とも名乗っています。



◆明治15年「相撲勝負帳」(590)

明治15年旧5月、山口町の米殿小路町での相撲興行の取組結果を記したものです。興行は6日間。取組は各日21~22番。「清瀧」「谷嵐」「九門竜」などの力士が結びの一番を務めています。



◆「相撲約定証(野田神社奉納相撲につき)」(606)

明治19年、山口町の野田神社臨時祭で奉納相撲が開催されました。右の証文は、この興行に関し、勸進元のみひとり高濱吉五郎から熊ヶ嶽安治郎ら「御連中」に提出されたものです。2日間の興行で計6円を「顔花として」支払うことを約束しています。「顔花」とは興行に係る上納金を指す言葉のようです。

